



おでんせ！ わんこそばまつい



「岩手の名物わんこそば、たあーんと食べてくなんせ！
んだども『もうは、わがね』と 思ったら、ちゃっちゃど
フタしてがんせや」 菊池 幸見 アナウンサー

5月29日(日)岩手の郷土食「第5回わんこそば祭り」が行われた。
今回の「祭り」は、母県の大震災被災者へ、少しでも支援の手を差し
伸べたいと「リッファ」「募金」「祭りの収益金」を母県のために送
ろうと、「絆・ふるさととは負けない！」のタイトルを掲げ開催した。

当日は「震災支援」の催しと云う事で、お客さんも「少しでも支援
が出来れば」の思いもあり、大勢の人出で、邦字紙2社、読売新
聞リオ支局からも取材に訪れた。

早朝から快晴で催し日和。予想外の人出で約300人を数え、長
い列が出来嬉しい悲鳴。こんな事から
競技が遅れた。第1回は女性の部で
4人が競った。3分間で何杯かを競う。
当会菊池徹氏の姪「菊池美希子さん」
が当日日本から着。早速「わんこそば」
に挑戦し29杯を平らげ「岩手の誇りを
守った」と菊池さん。(写真左 右が菊
池さん)以下20-19-18杯であった。

2回目、壮年の部3人で蛸井さん
が37杯、二人は23杯。3回目は4青年で大久保さんが48杯、41
-28-19杯。4回目は青年5人で競い佐藤さん(来伯者)が31杯、
25杯が2人、24-18杯であった。(注)今回は「おわん」一杯の
量を昨年の倍にしたらしく、出てくる数字の倍にした例年の量と大体
同じになります」

今年のソバも「日本製」出汁も「下出汁」をしっかり取ったせいか、
そばも汁も美味しいおいしいと皆さんに喜んで頂いた。

☆ 収益は3,372.95レアルで、義援金に積みたてられた。

「絆」 ふるさととは
負けない！



ご協力ありがとうございました。☆ 開催に際し「アルファインテル
旅行社」「酒・南部美人」の協力がありました。



大入りの会場は長い列も出来た

ご存知ですか「岩手わんこそば音頭」

- 1、わんこさ入ったら それ食えやれ食え もっと食え 嫌いじゃあ
るまいし8杯、10杯 これで止めたなら コリア 笑われる 何ぼ食べ
ても ゼニコ(銭)は同じ ドッコイ 汁など飲むんじやないよ
- 2、わんこさ入ったら それ食えやれ食え もっと食え わらす(童)
じゃあるまいし20や30杯 これで止めたなら コリア 男じゃなす
何ぼ食べても ハライタおこさぬ ドッコイ ベルト外してしまえ

岩手県人会の行事予定 (Eventos de Iwate)

☆ 7月15・16・17日 第14回「日本まつり」が イミグ
ランテ展示場で行われます。

東日本大震災に対し『甦れ！ 美しきニッポン』として特別
展示コーナーを設け、写真展示やビデオを放映。

(14° Festival do Japão dia 15/16/17 de Julho

de 2011 — Local Expo Imigrante)

☆ 8月28日(日) 午前11時より『第47回会員交流誕
生会』が行われます。

(47° Confraternização e Aniversario

Dia 28/08/2011)

New York 県人会も震災活動

千田会長殿 東日本大震災救援活動ご苦労様です。NYは日本人による救援活動が頻繁に開催されています。

小生も、まさに不眠不休で、少しでも役に立ちたいと連日募金活動で走り回っています。

NY 岩手県人会は、一日も早く、被災地に義援金を届けたいと言う会員の希望で震災発生以来、被災地に直接赴いて支援活動をしている、ライオンズクラブに我々の思いを託し、4月22日に盛岡のライオンズ地区キャビネットの相原ガバナーに、県人会で集めた緊急義援金3万ドルを直接お届けし、既に救援物資を購入いただき被災地に届いて居ります。

我々の義援金は企業からの大金の寄付がある、他の大きな団体の義援金額には到底及びませんが、当会員の母県に対する思い、それに会員の知人、友人そして街頭募金で支援して下さいましたNY市民皆様の善意がびっしりと詰った重い重い金額であります。

母県を含む全被災地の皆さんが、元の笑顔で生活できる日が、一日



写真 岩崎会長（右から2番目黄色い帽子）が、先頭に立って市民に募金を呼びかける

も早く訪れて欲しいと願って止みません。

NY 岩手県人会 岩崎雄亮拝

NY ジャパンデーで岩手郷土食



昨日（5月22日）は、NY恒例のジャパンデーに合わせて、パーク街で開催されたジャパンプロックストリート フェア（ストリート エアの一ブロックを日本関係の出展に限定）に参加し、岩手の一地方の豆腐田楽郷土料理を出展紹介しました。これには、宮城、福島県も参加し収益は広く今回の被災地に送金されます。午前11時から午後6時までの開催時間でしたが、岩手の豆腐田楽は午後2時で完売し、参加会員が氣勢を上げました。

ネベフィット コンサート

千田会長殿 いつもお世話頂いて居ります。微力ながら連日、日本救援活動に携わっています。

さて、先週の土曜日6月4日、NY 岩手県人会員の浅沼里香子ピアニストが企画し、NY日系ライオンズクラブの主催。岩手県人会後援のネベフィットコンサートを開催しました。

これは世界的に名をはせた、ハーレムのクワイヤーの皆さんがそこでピアノ演奏していた。浅沼里香子さんの故郷（岩手）の被災を聞いて救援に立ち上がってくれた友情コンサートです。すばらしいコンサートでした。

このコンサートで、岩手県人会員のお子さんが、石川啄木、宮沢賢治の詩を英語で朗読してくれました。



収益はこれまで東日本大震災救援のお世話になった米国への返礼も兼ねて4月に発生した、アラバマ周辺の竜巻被災地、及び、東日本被災地に送金されます。

Dreams Come True
 ニューヨーク・大連・サンパウロetc...世界10カ国
 二戸の酒米「ぎんおとめ」で造られる
 二戸の地酒 南部美人は世界へはばたく。

南部美人
 株式会社南部美人
 岩手県二戸市相馬字上町13
 TEL 0195-23-3133
 FAX 0195-23-4713
 E-mail: sakae@nanbubijin.co.jp
 ホームページ毎日更新
<http://www.nanbubijin.co.jp>
 ●お酒は20歳になってから

南部美人を飲めるサンパウロのお店

J UN SAKAMOTO TEL 3088-6019
 A-1 TEL 3145-1833
 BUNDDHA BAR BRASIL TEL 3044-6181

SHINTORI 新 鳥 TEL 3283-2455
 KINOSHITA 木 下 TEL 3849-6940
 SHAYA TEL 3079-5020

らーめん和 TEL 3145-1833
 阿 咩 TEL 3145-1833
 藍 染 TEL 5080-3300
 ら ん 月 TEL 3085-6915

- 5 月 1 日 東北ブロック青年部主催「第 7 回運動会」を開催。
- 3 藤村光夫相談役が、義援金贈呈のため訪岩へ
- 7 椎の実学園の生徒代表が義援金と千羽鶴で被災者を元気づけて下さいと来館。
- 9 県国際課より県人会からの『義援金』受領のメールあり。
- 10 東北ブロック代表の会合を当県人会で開催
- 11 「椎の実」学園からの「千羽鶴」を山田町の松本さんへ発送。
- 13 県連日本祭りブース抽選会に会長出席
- 16 ニッケイ新聞の深沢編集長の訪問を受けたと山田町の松本さんから電話あり
- 23 松本さんより、千羽鶴が届き役所の教育委員会と相談、山田中学校へ届けたと報あり
- ☆ 県国際課より「岩手の観光」ポスターの送付あり
- 26 県連定款改正臨時総会、定期代表者会に会長出席
- 27 藤村光夫相談役、岩手県へ県人会からの「義援金」の贈呈、親戚お見舞いの任務を終え帰国
- 28 ニッケイ新聞「立ち上がる被災地を歩く」(岩手)の連載始まる
- 29 第 5 回「わんこそば祭り」開催。盛況で約 300 名参加読売新聞リオ支局からも取材
- 6 月 1 日 黄川田徹衆議員より情報提供あり
- ☆ 会計監査を平野マリア、阿部正司、及川秀義氏で行う
- 3 会報 173 号を国内外へ発送

- 8 IBC 岩手放送の中村好子さんから「震災雑誌」2 冊、「震災特別番組 dvd」3 本の送付
- 13 吉田恭子さんより、バラグアイ駐日豊歳大使とイグアス移住地の福井一郎日会会長が岩手県庁訪問、パ国产大豆で作った豆腐を山田町に届けた。
- 17 午後 4 時から宮城県人会で、小原さんの「被災地視察報告会」があり、千田会長出席。参加者 70 名ほど
- ☆ みずほ銀行盛岡支店勤務の神庭晶氏旅行で来館
- 18 日本移民記念日 103 周年記念法要が、イビラプエラ公園内の「開拓先没者慰霊碑」で、県連主催、仏教連合会共催で行われ、会長出席
- 25 念願の「平泉の浄土文化遺産」が、ユネスコの世界遺産に、登録された。前日には「小笠原諸島」が自然文化に登録
- ☆ 花巻の渡辺勉氏より、近況のニュース送信り
- ☆ 岩手県知事、平泉町長宛て世界遺産登録のお祝いを発信
- 27 西館ピラポ県人会長から、日本祭りにパ国から「鬼剣舞」が参加すると報あり
- ☆ 日伯で多数のメール送受信あり



会費納入者名 (年額 R\$75.00 敬称略)

(5月) 渡辺美智子、高橋啓一、児玉剛一 (2010 年 2011 年)、岡田菊雄、中島智 (賛)、稗貫義朋 (賛)、
(6月) 安武俊樹 (賛)、

寄付・寄贈 (敬称略 5 月 6 月)

お茶菓子 佐々木憲輔 他 来館者多数、

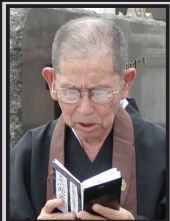
図書貸出 / 利用者

5 月 639 冊 166 名、 6 月 723 冊、177 名

図書寄贈者名 (5 月) 石崎之 2 冊、阿部宏樹 18 冊、神田大民 13 冊、川村一弘(岩手県) 2 冊、DVD 2 本、新橋 4 冊、
(6 月) 無名 5 冊、山之内真 5 冊、鈴木 55 冊 (週刊誌)、渡邊ハツイ 4 冊、中村好子 (岩手県) 震災特集 2 冊、dvd 3 本 (震災特別番組)、無名 1 冊、坂本恵美子 12 冊、上野博 2 冊、無名 12 冊、阿部正司 1 冊、堀恒富 2 冊、吉田チドリ 58 冊、無名 28 冊、三浦俊樹 4 冊、

来館者数 (下階利用者は含まれません)

5 月 517 名、 6 月 481 名、



逝 去

県人会相談役伊藤春野氏 (92 才、俳名 東睦) は、6 月 5 日夜急逝され、翌 7 日 4 時サンパウロ墓地に家族、親族、県人会関係者など見守る中埋葬されました。氏は長年の会員で諸役員を勤められ、移民 100 周年、県人会創立 50 周年記念として、駐伯日本国第 5 代杉村濤公使 (1906 年リオで急死) の墓碑改修を提唱され、2008 年 6 月 14 日達増岩手県知事はじめ、慶祝団員を迎えて墓碑改修披露を行った。

★ 尚四十九日法要は、7 月 16 日 (土) 午後 3 時から Rua Desembargador Paulo Passalacqua 134 (Pacaembu) で行われます。問合せ 伊藤 = Tel 3062-4888

料理講習会



5 月 21 日 (土) 午後 2 時から「さくら醤油」から出張講師 Dona Janete) による講習会が行われた。

献立は、やさそば、茄子のあしらえ、豆腐のデザート、ジャガイモの付出しなどであった。

県人会では初めて外部から講師を依頼した。こんな料理だったら自分でも作れると誘いだし「婦人部復活」の誘いになればと思っている。

当日の参加者は 30 名で、いろいろな調味料、材料などへの質問があり、有意義な講習会であった。

(写真 上 講習会風景、下 集まった皆さん)



大震災の消息安否から

パラナ州シアノルテ在 苦米地 静子（98歳）

3月15日娘二人からの手紙で天災を知り驚きました。この度の地震は世界記録にちかく、それに伴う「津波」も甚大と判り愕然となりました。早速大船渡や花巻の知人縁者などに手紙を書きましたが、「日本への通信は不通」との理由で局から戻されました。

ふるさとの安否を気遣い乍ら悶々として過ごしておりましたが、県人会報に「親戚の安否情報を提供しているから、地域や名前を知らせるように」の文字に縫ってお願いします。大船渡の志田賢太郎（妻さとよ）、菊地満江さんを調べて（欲しいとありました）

5月9日膨大なお調べ書封入のお便り有難く頂戴しました。早速のご配慮、嬉しくてお礼の言葉も言い尽くせない程でございます。

早速ながら私がご依頼申し上げた二名の安否について、記されていないのは、たしかあの津波のなかを辛くも生きのび、親戚の家にでも保護されているものと私は想像致しました。（志田賢太郎、菊地満江両人とも38年前に私共が訪じた時、親身以上の世話になった人達で以来、年に一、二度文通を欠かさず、この正月にも近況報告など元気な手紙を貰っております）尚両名とも80歳後半ですが、生きのびてくれたものと、私は信じてお陰で大喜びをしております。

お知らせくださった大勢の犠牲者のお名前を一つ一つ数えているうちに、縁者二名の名前を見つけました。一人は亡父の甥、志田武男（81）亡夫の兄の長男で、もう一人は村上耕治（75）亡夫の従兄の長男で、悲しいことでした。でも・・・大船渡管内の犠牲者460名余の中の二人です。未曾有の災禍を潜り抜けたふるさとの中のたった二人です。そう思って諦めるべきだと心に決めました。

（6月24日受信文から）その後大船渡（蛸の浦、大浜）に住む縁者二人に出した手紙を6月10日入手。尋ねていた消息が全て判りました。それによると縁者の内、死者2名、家屋全壊2戸、半壊2戸、後は多少の破損あれど、命も物品も無事だったとわかり大変安堵しました。お世話どうも有難うございました。

日本移民103周年



6月18日（土）「開拓先没者慰霊碑」があるイビラプエラ公園内で、県人会連合会主催の日本移民103周年追悼法要が、仏教連合会共催で行われた。

各県人会が「先没者過去帳」を祭壇に奉り、大部一秋在サンパウロ総領事やコロナ系団体、県人会代表者多数が参列した。

移民103周年、先の大震災から100日目で犠牲者の冥福を祈りしめやかに行われた。導師の読経が続く中、各界や県人会代表が順番に焼香、先没者や震災犠牲者に祈りを捧げた。

久しぶりに暖かい晴天で参加者も例年より多く感じ、桜の蕾が春を告げようと一輪二輪と咲き始めていた。

いま伝えたい

被災者の声

（朝日新聞 5月7日）

山田町 松本 智子さん（58）
「JR陸中山田駅」近くで、夫婦で営んできた黄色い建物の文房具店『マツモト』は、津波の後の火災で跡形もなくなりました。



悲しくて悔しくて。瓦礫を片づけていた時に手を貸して頂いた、ボランティアの皆さんには本当に感謝しています。倉庫だったプレハブを流された場所から戻して、今の場所ですと再会できました。周囲の励ましのお陰です。（写真 右から智子さん、母のトミさん、夫の龍児さん、5月当会藤村相談役がお見舞時写す。）



陸前高田市高田町 菊池 ミサ子さん（87）
「水に追いかけて、じいちゃんが亡くなる前にお世話になっていた施設に避難してきました。最初は人が一杯でトイレに行くのも大変で、お腹もはって大変でした。

今も水道はだめだし、床に毛布を敷いて寝ているけれど、食べ物には沢山の夜も眠れます。この避難所の最年長だっけ。温泉旅館に泊まらないかって云われたけれど、ここで仮設住宅が当たるの待ってます。「知らない場所には行きたくない、知らない人の中じゃ不安だから」

釜石市只野町 鉄工業 久保 守さん（69）
「仮設住宅建設の場所のスペースをもっと、早くして貰えないものか。被災直後のパニックからようやく心が落ち着き、避難所の仲間同士でも『一から皆でやり直そう』『昔の釜石を取戻そう』と、前向きな話し合いが出来るようになった。



でも、自分たちの生活拠点を整えないことには、新たな一歩が踏み出せない。「国はお盆までには全員が入居出来る見込みと言うが、それまでは到底待てない人も多いはずだ」

東日本大震災義援金中間報告

去る3月11日の東日本大震災もこの会報が皆さんの手元に届く頃は、早4ヶ月になると思います。

震災直後から岩手県人会では、義援金で母県を支援しようと皆様方に働きかけました。お陰様で会員、会員外、コロナ系日系人の方々から大きな支援を頂きました事に、心から感謝申し上げます。

「中間報告」6月27日の時点で、総額はR\$ 67,205.00です。その中から5月9日母県に贈った金額が300万円（当時のレートでR\$ 58,200.00）で、役員派遣費用がR\$ 4,053.80でした。

災害復興は、まだまだ時間がかかりますので、9月30日まで少しでも多く義援金を募り、支援の気持ちを県民に伝えたいと思いますので、宜しくお願い申し上げます。

大震災被災者 黄川田議員が「復興」を語る

(5月10日読売新聞) 震災発生の日3月11日、私が地元の岩手県陸前高田市に帰ろうとした矢先、議員会館の自室で激しい揺れに見舞われた。運良く直後に通じた電話で、「家は大丈夫だけど、食器が割れて大変。片付けに3日はかかるわ」と言う妻(敬子51歳)に、私は「津波に気をつけて。避難指示に従って」と伝えた。それが最後の会話だ。長男(駿一29歳)と母、秘書は遺体で見つかった。妻と父は今も行方不明のままだ。

市役所が壊滅した陸前高田市では70数人の職員が犠牲となり、多



写真一岩手日報記者の証言より 津波は土煙とごう音を上げながら瞬間に「陸前高田市街」をなめ尽くした＝午後3時30分

くの職員が家族を失った。それでも皆、避難所の運営や救援物資の配分、確保などに取り組んでいる。自分だけが悲しんではられない。

私も元市職員として、休日は市役所を手伝い、東京では国会の仕事がある。何があろうと自分の職責を全うするという思いである。

メール短信(盛岡市 吉田恭子さんより)

本日(6月13日)は、イグアスの福井一郎さんが、駐日大使の豊歳さんと現地の大豆で作った豆腐を被災地に届けました。

岩手ではは知事表敬の後山田町へ届けました。テレビで沼崎町長や菊地光明さんが試食している場面を映し出して、南米と岩手が繋がっていることを県民に広く知らせてくれました。

山田といえば、松本さんの娘婿の龍児さんが飯店舗を再開。復興へ向けてテレビで話してました。

アスンシオンの武藤会長の実家も完全に流されたそうで、親族はどこかに非難しているはずだけれども松本さんも詳しいことは分らないと、昨日の電話で話してました。被害を受けた市町村はどんな形で復興するかこれから先がとても気になります。

4,5日前に佐藤節夫さん(金ヶ崎)からお手紙を頂戴しました。父親の武さんは、姉2人とその家族を昭和8年ごろに送り出して以来、その消息を気(104歳で4月6日逝去)にかけていたことや一時消息が途絶えて節夫さんが訪伯した折には、従弟妹のどなたにも会えなかったこと、ようやく暮れに従妹から書信があったので、父親の訃報を知らせることが出来ることなど便箋4枚に思いが綴られてありました。戦前に移住された方々の日伯の関係者の気持ちが手に取るように分りました。だんだんに歴史の証言者が鬼籍に入られるのはなんとしても残念でなりません。

東日本大震災復興特別委員会・委員長

ただ、政治はその勤めを果たしているのか。政治は被災者に安心感を与えることが大切なのに、そのメッセージが出ていない。震災から50日以上過ぎても、義援金も支援金も手元に届かない。政治に必要なのは決断と実行だ。たくさん会議を作り救済策を議論しても、被災者に届かなければ意味がない。

被災した自治体では、義援金を配るにも、各種証明書を発行するにも人手が足りない。被災地の事情をよく把握している近隣自治体の職員が応援に入り、県や国がその穴埋めをする人材支援策を提案したい。

東京では日常生活が戻り、「有事」という意識が薄れつつある。復興計画や理念の議論も大切だが、同時に被災者の日々の暮らしを支えることが重要だ。首相が変わっても何も変わらないだろう。与野党関係なく、まずは一つでも多く被災者を救う法律を成立させることが国会議員の職責と、被災者の一人として感じている。

他記事から議員の一言「被災地をこれ以上待たせない為」「政党の為ではなく、復興のため、その思いで審議に徹したい」「会議は踊るが復旧・復興は進まず」だ。「政治は決断」と実行だ。

衆議院議員 黄川田徹 ☆ 衆院岩手3区。岩手県陸前高田市職員、県議を経て2000年に初当選し、当選4回。自らの家族らが被災した。57歳(同氏は1月1日、ブラジル新大統領就任式に出席。3日岩手県人会員と親しく懇談された。)



写真 年頭のブラジル新大統領就任式に出席した、黄川田議員は県人会員と親しく懇談

読売新聞「岩手わんこそば祭り」を取材

読売新聞リオデジャネイロ局の浜砂雅一記者から、5月29日(日)開催される岩手県人会恒例の「わんこそば祭り」を取材したいと申出があり当日取材。31日付け発行、読売新聞全国版に掲載された紙面を掲載します。



日本大災害 支援活動止まず

(ブラジル日系社会)

3月11日、史上最大の地震と巨大津波が東日本沿岸部を襲ってから3ヶ月が過ぎた。特に岩手、宮城、福島を襲った大津波の映像は在ブラジル日系人はじめ、ブラジル社会にも強震が走った。

震災直後から被災県はじめ、日系団体が支援のため「義援金募金」活動を行い、サンパウロでは5月初旬の時点でR\$800万(約4億円)、最近ではパラナ州からR\$65万(約3,250万円)と云う記事が出ていた。

また、岩手出身杉村公使ゆかりの地・当時公使館があったベトロポリス市が主導して、「頑張れ日本」を日系団体と8月に震災支援イベント開催と新聞に掲載された。

6月30日付けの新聞には、全伯から集められた義援金は円換算で約6億円の支援があった。戦後のLALA物資以来の大支援だと伝えている。

千羽鶴を被災地に贈りたい

突然のメール失礼いたします。3月に起きた大震災を受け、同大学へ留学中の日本人留学生と共にボランティア団体「São Paulo for Japan」を立ち上げました。

主に行っている活動として千羽鶴作り、募金活動、翻訳活動、そしてチャリティーコンサートが挙げられます。そこで被害の大きかった県の1つである岩手県に千羽鶴を届けたいと思っているのですが、県庁に送ったとしても既にたくさんの鶴が全国各地から届けられていると聞き、もっと他に送る宛としてよい場所はないかと考え中でございます。

何かブラジルとゆかりのある場所に送ることができたら本望です。もしアドバイス頂けるようでしたら幸いです。

再びメール申し上げます。きのう大学構内でイベントを行い、千羽鶴を完成させることができました。

お返事が遅くなりすみません。Sao Paulo For Japanのメンバーと話し合ったところ、メンバーのうちの小島の父が、最近岩手県大船渡病院、陸前高田の仮の診療所にボランティアに行ったそうで、そちらの病院に私たちから直接千羽鶴を送ろうという意見にまとまりました。

大阪大学3年生 カンピーナス大学留学 鈴木恵梨子

お知らせ

☆「高齢者賀詞」岩手県生まれで2012年1月1日で、満75歳になる人はいませんか。県知事から表彰されます。

☆「白寿者」日本生まれで1913年生まれ(99歳)の方はいませんか。2012年6月移民の日を記念して「白寿者表彰」(日本文化協会)があります。確当者は県人会までお知らせ下さい。

2011年度は、泉百吉さん(気仙郡住田町出身、昭和7年渡伯、ミナス州在)、及川さとさん(胆沢郡胆沢町出身、昭和8年渡伯、サンパウロ在)、高橋啓一さん(花巻市出身昭和8年渡伯、サンパウロ在)の3名でした。おめでとうございます。

モンテアズール ボランティアから義援金

「モンテ・アズール・コミュニティ協会」(日本、ドイツ、スイス、ブラジルなど、ファベールで教育、医療、文化、環境分野などで活動する団体)その日本人青年グループが催した「Festa para Japão」で震災義援金を募り、「浄財」R\$400.00と共に写真報告が届けられた。

このグループに県人会は昨年は「おわん」を貸出したところ、「わんこそば」ならぬ「わんこそーめん」を行っている。今年は浴衣とハッピを貸出した。県人会が災害支援募金を行っている事を知り協力があつたもの。

岩手県人会 会長千田様

この度は FESTA para o JAPÃO にご協力頂き、本当にありがとうございます。多くの方にご寄付、ご協力を頂き、また晴天にも恵まれ、祭は6月4日、Favela da Peinhaにて無事行われ、誠に良かったです。このお礼は、私もモンテアズールへの協力として、お礼申し上げます。モンテアズールボランティア 古賀 青山 啓



平泉の浄土文化遺産

世界遺産へ登録



「まばゆいほどの金色堂」

平泉町長が見守る中「世界遺産」に登録された。(小笠原諸島も自然遺産に登録された)

2008年の岩手宮城内大地震に次ぐ、先の大震災で観光客が冷え込んでいた県南地方は、世界遺産に登録された事で同地方やつられて岩手県内の観光地でも活気を呼び、経済効果も期待されそう。(中尊寺内に金色堂が

6月25日(日本時間26日午前1時前)念願の「平泉の浄土文化遺産」が、ユネスコの第35回会議で、達増知事や菅原



奉られている) また、県内の活気により震災被災地への協力が出来ると、同地方では喜んでいる。



毛越寺浄土庭園

5º FESTIVAL DE WANKO SOBA



Foi realizado no dia 29 de Maio, o 5º Festival de Wanko Soba, com público aproximado de 300 pessoas, superando todas as expectativas e batendo o recorde de público dos eventos anteriores.

Para este ano o Guioza também foi à vontade, apenas as bebidas foram cobradas à parte. Foram realizadas 5 rodadas da competição de quem come mais Soba em 3 minutos. No feminino a campeã foi Mikiko Kikuchi de Iwate-Ken (estava a passeio no Brasil visitando o tio Sr. Tooru Kikuchi) com 29 porções. No masculino o vencedor foi o Sr. Jin Okubo que comeu 48 porções.

O evento deste ano teve grande repercussão, inclusive saiu uma matéria no Jornal japonês Yomiuri Shimbun do dia 31 de Maio, reportagem de Massaiti Hamasuna, repórter do jornal aqui no Brasil, que veio exclusivamente do Rio de Janeiro, para fazer a reportagem do evento.

O lucro no valor de R\$ 3.372,95 foi integralmente doado para as vítimas do Tsunami de Iwate-Ken



CURSO DE CULINÁRIA DA SAKURA NO KENJINKAI

Aconteceu no dia 21 de Maio, organizado pela parceria IPK – Instituto Paulo Kobayashi e a Sakura Alimentos.

Neste dia a professora e mestre de culinária Janete ensinou 4 receitas (Yakisoba, antepasto de berinjela, batatinha aperitivo e flan de tofu sabor morango) para aproximadamente 30 participantes entre associados e convidados.

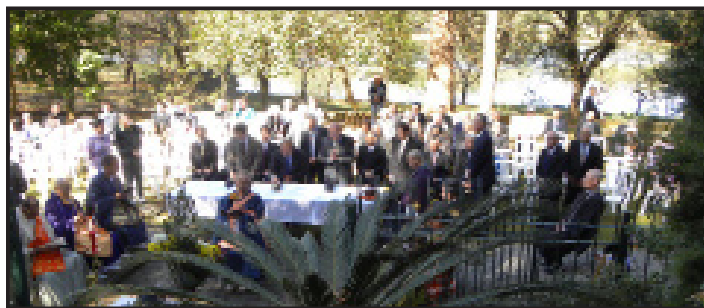
O curso foi gratuito, mas foi solicitado a cada participante a doação de 1 Kg de alimento não perecível para serem entregues a entidades assistenciais.

No final houve a degustação das receitas preparadas e sorteios de brindes aos participantes.

103 ANOS DA IMIGRAÇÃO JAPONESA NO BRASIL

Em comemoração aos 103 anos da Imigração Japonesa no Brasil, foi realizado no dia 18 de Junho no Memorial do Imigrante (Parque Ibirapuera São Paulo), a cerimônia budista, pela Federação Budista do Brasil.

Estiveram presentes o Consul Kazuaki Obe, presidentes dos Kenjinkais e associações beneficentes.



ANUIDADES RECEBIDAS

(Maio) Michiko Watanabe, Keiichi Takahashi, Goiti Kodama, Kikuo Okada, Satoru Nakajima, Yoshitomo Hienuki ;

(Junho) Toshiki Yasutake

PRÓXIMOS EVENTOS

14º Festival do Japão

Data : 15/16/17 de Julho

Local : Expo Imigrantes

47º Confraternização e Aniversariantes

Data : 28/08/2011

RELATÓRIO PARCIAL DAS DOAÇÕES PARA IWATE-KEN

Valor arrecadado até 27/06.....R\$ 67.205,00
Despesa viagem Sr. FujimuraR\$ 4.053,80
Valor doado a Iwate-Ken . (¥ 3.000.000) R\$ 58.200,00
Saldo a ser doadoR\$ 4.951,20

Obs : Foi decidido em reunião pela Diretoria, pagar passagem ao Sr. Fujimura levar a doação em mãos, em razão do altas taxas cobradas pelos bancos para o envio do dinheiro. Até a data da viagem o valor arrecadado era de R\$ 62.253,80. Com base neste valor a taxa cobrada pelo banco seria 15 % mais 0,38 % de IOF, totalizando R\$ 9.574,63, portanto mais que o dobro do valor pago pela passagem, além de ser mais correto realizar a entrega pessoalmente.

NOTA DE FALECIMENTO

Faleceu no dia 5 de Junho em São Paulo aos 92 anos, o Sr. Haruno Ito. Natural de Kamaishi-shi, o Sr. Ito fez parte da diretoria da associação por muitos anos e ultimamente ocupava o cargo de conselheiro da associação.

O enterro foi realizado no dia 06 de Julho no Cemitério São Paulo.

A missa de 49 dias será realizada no dia 16 de Julho à 15 hs no Templo Budista sito à Rua Desembargador Paulo Passalacqua, 135 – bairro Pacaembu

ノリシル岩手県人会ニユース 174号 2011年7月発行

TEL/FAX (11) 3207-2383 www.iwate.org.br e-mail iwate@iwate.org.br

Rua Thomaz Gonzaga 95-M Liberdade São Paulo Brasil CEP 01506-020

ノリシル岩手県人会

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil



平泉町 HIRAIZUMI-CHO

平泉町は岩手県の南部に位置し、北は奥州市、南は一関市と接しています。県都盛岡市から南に約83kmの距離にあり、東西16.15km、南北8.51kmと東西に長く総面積は63.39平方kmとなっています。

町の中央部に北上川をはじめとする大小の河川が大地を潤し、緑豊かな田園地帯を形成する水と緑に包まれた豊かな自然を誇る町です。町の東には北上山地に含まれる束稲山（たばしねやま・595.7m）などが連なり、西は奥羽山脈に続く100～200m前後の丘陵地が広がっています。

気候は北上山地と奥羽山脈に挟まれているため、内陸性の気候で県内では比較的温暖な気候になっています。

当町は平安末期より政治・文化を中心として栄えた歴史のある町です。奥州藤原三代によって建立された中尊寺や毛越寺をはじめ、無量光院跡、観自在王院跡など「平泉の文化遺

産」として多くの歴史遺産が残されています。

仏教寺院や浄土庭園などの遺跡群が周辺の自然景観と一体となった自然や歴史と調和した貴重な文化的景観は世界文化遺産への登録を



毛越寺

ふるさと巡り 30

北上川



目指しており5月7日、ユネスコの諮問機関であるイコモスから「世界遺産」にふさわしいという「登録」の勧告が示されました。なお正式な登録の可否は、今月（6月）下旬に開催される世界遺産委員会で決定されます。

☆ 6月25日念願の「平泉文化遺産」がユネスコで「世界文化遺産」に登録されました。

世界遺産登録の記事は 頁に記載されています。